

天皇杯

農林水産大臣賞

六ノ里自治会（岐阜県郡上市）

里山の営みを次世代に紡ぐ

背景

六ノ里集落は、岐阜県郡上市の中心市街地である「郡上八幡」の北部に位置し、長良川水系の源流域に広がる標高約530～750mの谷あい形成された中山間地域の農業集落である。総戸数82戸、水田面積約23.5haを有し、歴史・信仰・文化・農業が深く根ざした地域である。

六ノ里集落では、冷涼な気候条件のもと、水稻を中心に、夏秋トマト等を生産する専業農家が存在し、小規模兼業稲作農家及び非農家と連携しながら、集落ぐるみで農地の保全管理をはじめ、自然・生活環境を守っている。

歴史や文化、豊かな自然に恵まれた六ノ里集落だが、高齢化、過疎化、後継者不足が進み、遊休農地が増加するなどの課題が顕在化していた。

そこで子ども達に豊かな自然と棚田のある風景をつなぎたいとの思いから、平成20年にイラスト田んぼを核とした「六ノ里・棚田にじいろプロジェクト」を発足。

また、平成21年に当時の自治会長が六ノ里の「米」をブランド化して高く販売できないか住民に呼びかけたこともあり、地域づくりが開始された。



取組概要

旧来からの地縁組織である自治会を中心に、「六ノ里棚田米生産組合」、「六ノ里地域づくり協議会」、「六ノ里棚田地域振興協議会」、「六ノ里雪おろし応援隊」など、地域課題や生活課題に応じた実働組織が設立されている。活動内容は各組織が発案して自治会総会に諮った上で実行している。

「六ノ里棚田米」のブランド化を目指し、土壌診断や実証圃の結果をもとに独自の栽培こよみを作成、食味値80点未満は棚田米として集荷・販売しないなど、地域一丸となった栽培管理の徹底によって平成31年に商標登録を取得している。六ノ里集落内で取り組んでいる棚田米の生産は、平成22年と令和7年を比較して、生産者は2.2倍（10名→22名）、栽培面積は3.4倍（2.5ha→8.4ha）、販売量は5.1倍（71俵→360俵）に増加しており、全国で開催されている米コンクールでも好成績をあげている。

六ノ里棚田米のブランド化によって生産組合員の経営改善が図られ、若い稲作後継者が4名育ってきたほか、六ノ里集落の取組が郡上市内の各地域に波及し、郡上市全体の米づくりがレベルアップしている。

棚田を中心とした農地管理は、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度を活用し、農地保全や農業用水路の整備補修、有害鳥獣の捕獲を実施している。また、自治会で基金を創設し、道路沿いの計画的な樹木の伐採による安全確保、景観整備に努めている。

自治会が実施した「10年後の六ノ里」という住民アンケートをきっかけに、意欲ある若い住民が中心となって「六ノ里地域づくり協議会」を設立し、自治会が担っていた広報活動や「拝殿踊り」「桜祭り」などの集落行事等の運営のほか、景観・環境整備等を行い、地域の魅力を外部に発信・提供している。

近年、移住者も定着しており、平成30年に移住した人が中心になって源蔵寺棚田を再生し、地域内外の応援者とともに景観作物（そば）の栽培やそばの試食会・収穫祭を開催して地域内外の交流を促進している。また、移住者2名とUターン者1名が狩猟免許を取得して獣害対策に取り組むほか、夫婦で移住した住民が「染め物工房」を創業し、原料となる藍の栽培にも取り組むなど地域振興に貢献している。

写真で見る団体の取組



畑ヶ谷棚田



令和7年度のイラスト田んぼ



地域ブランド米「六ノ里棚田米」



拝殿踊り



桜祭り（善勝寺）



再生農地での景観作物（そば）の栽培

特定非営利活動法人おかざき農遊会（愛知県岡崎市）

荒地は人の心を荒廃させる めざせ！菜園都市

背景

岡崎市は、愛知県のほぼ中央部にあり、県内では3番目に広い面積を有している。市の大部分は丘陵台地であり、市の西部を南北に流れる矢作川沿岸の肥沃な沖積層地帯が本市の主要な農業地帯となっている。市の主要な作物は米、小麦、大豆、なす、いちご、自然薯、観葉植物等である。

市は平成18年1月に旧額田町と合併し、都市的地域から山間農業地域までを有するが、各地域において農業就業者数や農地面積が減少し、荒廃農地が増加しており、生産基盤が一層脆弱化することが危惧されていた。

こうした中、JAあいち三河や岡崎市が主催する農業塾修了生有志が集まり、増え続ける荒廃農地を自分たちの力で豊かな畑に戻そうと、創設者の呼掛けで平成19年に任意団体「農遊会」を設立。平成22年には「荒地は人の心を荒廃させる」を会の理念に掲げ、NPO法人化により人員、組織を強化し、市民が主体となった荒廃農地の解消と食農教育の活動を開始。



愛知県
岡崎市

取組概要

おかざき農遊会は正会員等134名で構成され、共同圃場、朝市、食農教育、市民農園、営農支援、環境美化の6事業グループと4委員会の運営により活動している。JA及び市が開催する「農業塾」の修了生を積極的に受け入れ、新規就農者の定着を支援する受け皿としての役割を担っている。さらに、会員間ではベテランから若手・中堅への技術継承が行われている。

本会及び会員が管理する農地は約15haであり、共同圃場として会員の共同作業による野菜栽培や児童・学童による農業体験が行われている。この農地のうち6.6haは荒廃農地を再生したものであり、害虫の発生や景観の悪化等を未然に防ぎ、地域の生活環境の維持・向上に貢献している。

会員が栽培した新鮮な野菜は、定期的に開催する朝市や産直などを通じ安価に市民に提供され、売上は農地拡大や整備に再投資する循環を生んでおり、平成28年以降は補助金に依存しない財政的自立を継続している。

また、市内の荒廃農地等を市民農園（6か所）として整備し、農具や肥料を完備した初心者向けの「らくらく農園」を運営するなど、市民への野菜栽培体験機会の提供を通じ農業への理解促進に貢献している。食農教育事業では、「菜園都市おかざき」の実現に向け、小学校や福祉施設等への栽培指導や「まちなか菜園」での市民への野菜づくりの普及のほか、岡崎市有機栽培事業支援として延べ765人の従事者により、あいちの伝統野菜である「法性寺ねぎ」の保存継承活動に貢献している。

さらに、新規就農者の自立支援、収穫期の繁忙期の作業支援に取り組み、述べ469人が参加した。地域内の延べ17事業者に対して営農支援を実施し、農作業の負担軽減に寄与している。

写真で見る団体の取組



市民農園利用者の作業風景



幼稚園児による収穫体験



地域イベントへの朝市出店の様子



「法性寺ねぎ」の栽培指導



なす定植作業の労働支援



まちなか菜園の展開